極域科学コース履修モデル 5年一貫制博士課程

教育研究指導分野: 極域気水圏分野

研究課題: 極域大気海洋相互作用に関する研究

年次	全学の科目	単位	基礎科目	単位	概論科目	単位	専門科目	単位	研究指導科目	単位	フィールドワーク他
1	フレッシュマンコース	2	先端地球科学通論1 先端地球科学通論2 極域複合科学概論 大気・水圏の科学概論 科学プレゼンテーション 科学ライティング	2 2 1 2 2 2	極域海洋科学概論	2	極域気候システム概論 雪氷圏解析論 雪氷コア古気候論 超高層大気波動基礎論	2 2 2 2	先端学術院特別研究IA・IB 極域科学特別演習IA・IB	4 4	南極や北極の観測活動に参加し、データ取得
	<p><到達目標> 複合科学、極域科学の全般について幅広く学習するなかで、博士論文の研究テーマ及び研究計画の大枠を設定する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならずコースの教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
2							極域大気・水・物質循環論	2	先端学術院特別研究IIA・IIB 極域科学特別演習IIA・IIB	4 4	海外の研究機関に短期滞在し、数値モデルなどの技術を習得
	<p><到達目標> 博士論文テーマの絞り込みを行い、具体的なテーマ及び研究計画を決定する。博士論文データ取得のためのフィールドワーク等を実施することもある。年度末までに入学後の研究成果をまとめた中間報告書を作成し、各研究グループの教員の評価を受ける。また、2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならずコースの教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
3									先端学術院特別研究IIIA・IIIB 極域科学特別演習IIIA・IIIB	4 4	南極や北極の観測活動に参加し、主体的な活動によりデータ取得
	<p><到達目標> フィールドワーク等により、博士論文テーマに沿って必要なデータ取得を行うとともに、データの解析を行う。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならずコースの教員集団全体のレビューを受ける。また、これまでの成果に関係する内容で、査読のある学術誌に論文を投稿する。</p>										
4									先端学術院特別研究IV A・IV B 極域科学特別演習IV A・IV B	4 4	国内外の学会で研究発表・内外の研究者との交流
	<p><到達目標> 博士論文作成に必要なデータ取得を完了させ、データの解析を進める。さらに、博士論文の執筆に入る。また、博士論文に関係する内容で、査読ある学術誌に論文を投稿する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果を発表し、指導教員のみならずコースの教員集団全体のレビューを受ける。</p>										
5									先端学術院特別研究VA・VB 極域科学特別演習VA・VB	4 4	国内外の学会で研究発表・内外の研究者との交流
	<p><到達目標> 博士論文の執筆を進める。予備審査の段階までに、論文の完成度が博士論文の水準の80%までに至っていることを要する。予備審査後、本審査出願までの間に予備審査委員会による指摘事項をクリアし、博士論文を完成させる。</p>										
単位数		2		11		2			10		40

モデル取得単位数	65
修了要件単位数	42

修了要件

先端学術院に5年以上(休学期間を除く)在学すること。
 先端学術院特別研究IA～VBの20単位を含む42単位以上を修得すること。
 指導教員から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。
 所定の学費等を納めていること(授業料等免除者を除く)。
 (総研大と単位互換協定を結んでいる他大学の授業科目について、一定の単位数まで修了要件の単位数に含めることができる。)